

1. 第1報では視作業と環境色による疲労の問題を発表したが、今回は特に疲労の点を追求するために、クレペリン精神作業による実験を行なったので報告する。

2. 実験室内の環境色を0.3R8.1/3.1, 7.5GY8/4, 9.6/, 2.6/の4色とし、各色相ごとに天井、壁、床、机の一面を色彩調節する。光源は白色けい光灯、昼光色けい光灯、白熱電球を用い、実験室内の照度は500Lux一定とする。作業はクレペリン精神作業により実験を行ない、作業前後にはフリッカー値により測定する。

3. (1)平均誤びゅう量、初頭努力率においては作業前の疲労度、即ち5分凝視後の疲労度が大きく影響している。

(2)昼光色けい光灯では疲労が大きく、白熱電球では0.3R8.1/3.1の疲労が目立つがこれはかなり演色性の影響が大である。

(3)昼光色けい光灯の疲労が大なのは、短波長側に強力な輝線スペクトルがあり、長波長側のエネルギーが極めて弱いので赤色光が少なく演色性が悪いためと思われる。